

化学で生命現象をつたなぎ、人をつたなぎ



奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授
奈良先端科学技術大学院大学 学長
磯貝 彰

中身が変わり、形が変わる

「その場にとどまるためには、全力で走り続けなければならぬ」。『鏡の中のアリス』の中で、赤の女王はこう言いました。植物も生き残るために、自家不適合性を利用して走り続けています。そして変わり続けて、多様性を確保しているのです。私も人との出会いによって中身が変わり、分かれ道で形が変わってきました。それはちょうど昆虫が、目いっぱいまで成長した後で、脱皮をするようなものでした。そんな植物や昆虫の営みを、私は化学者の目で眺めてきたのです。

四月二日生まれの小粒の山椒

東京の根津に、七人兄弟の五番目として生まれました。大正の大震災や太平洋戦争でも焼けず、古い物や事が残っている下町です。三月三〇日に生まれた子供のことを思っ、親は四月一日生れとして届けてくれたのですが、遅生まれは二日からだったのです。一日違いで全く違った人生になっていたでしょうね。一つ目の大きな分かれ道です。学年で一番遅くに生まれていますから、小学校でも中学校でも一番小さく、ひたすら誰かにくっついて遊びに行くのが精一杯で、今から思えば背伸びをして過ごしていました。自分が率先して何かをやった記憶が一つもないのです。両親も何かを期待していたふうではありませんが、懸命に働い



働き者だった両親。根津の自宅近くの路地。